

取組の概要

対象畜種

カモ

協議会構成員

畜産農家、耕種農家、新庄もがみ農業協同組合、舟形町、
山形県農業技術普及課、舟形町食生活改善推進協議会 等

飼料用米生産面積

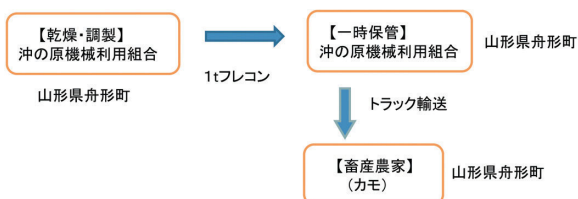
1.8ha

供試品種

ホシアオバ 0.7ha
夢あおば 0.6ha
べこあおば 0.5ha

取組内容

①飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査



◆不正規流通防止の観点から、全て沖の原機械利用組合のライスセンターで乾燥、調製等を行い、移送も同組合で行いました。

②飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査
(畜産物の成分分析を含む)

試験設計：カモに対し、配合飼料に50%配合。

調査項目：発育：影響なし

肉質：影響なし

肉の脂肪の色が白く、脂肪量が多く、肉質がやわらかい。

※取引先業者からの評価が高い

取組によってわかったこと

1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

- 供給先である畜産農家までの移送は、破袋等の事故もなく実施できました。
- 低価格であることから、栽培コストの低減が課題であり、そのためには直播栽培等を積極的に導入するなどの低コスト栽培の必要があると思われました。

2. 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。

- 発育に差はありませんでした。
 - 脂肪色がやや白くなりました。
 - 脂肪量が多くなりました。
 - 肉質がやわらかくなりました。
- 以上のことから、取引先業者からの評価が高くなりました。

3. 今後の飼料用米の取組予定などについて

- 本町では、食料自給率向上とコメ需給調整の効果的手法としての飼料用米の作付けを拡大する計画であり、今回の実証調査で沖の原機械利用組合を拠点とした作業体系が確立でき、作付け拡大への良い契機となりました。しかしながら、飼料用米の作付けを拡大させる一方で、供給先（販路）の拡大が課題となっています。また、取引価格が低いことから、いかにして栽培コストを低減するかが今後の課題と思われまます。

J A 金山営農課 星川 憲一

参考データ・写真等

